りんご情報 No.11

令和６年　８月９日発行

ＪＡグリーン長野営農販売部・経済部
ＪＡグリーン長野りんご部会

◆当面する重点作業

１．高温により果実の日焼けが発生している。葉摘みや支柱立ては、果実温が十分に上がった午後から実施する。また、徒長枝の切りすぎや葉の摘みのしすぎに注意する。
２．定期的にかん水を実施する。特に排水が悪かった園は根が弱っているので、高温が続いた場合は早めにかん水を行い樹の保護を図る。
３．炭そ病の果実病斑が見られたら、早急に、採って土中に埋める。
４．スモモヒメシンクイの被害がみられる。防除間隔や散布ムラに注意し防除を徹底する。
被害果がある場合は、適切に処理を行う。
５．早生種の収穫を適期に行う。早獲りしないよう食味を確認してから収穫を始める。
シナノリップは、地色が黄緑色で収穫する。
サンつがるは、前半は着色したものから収穫し、後半は地色が抜ける前までに収穫を行う。
６．中生種への落果防止剤の散布と、樹相に合わせた中生種の着色管理を行う。
７．鳥害対策を工夫して行う。シナノリップなど特に着色の良い品種は重点的に対策を図る。
８．サンふじの見直し摘果を再度行い、青味果・変形果・小玉等を落とす。

◆第１２回薬剤散布について

１．散 布 日 ：８月２０日(火)～２５日(日)

収穫中の品種には今回散布は行わない。ただし、散布しても散布後 24 時間経過すれば、収穫可能

２．調 合 量 ：水１００ℓ当り　※混用順に記載　　散布日　　月　　日

農薬名	使用量	対象病害虫	収穫前
展　着　剤	１０mℓ	―	―
アーデントフロアブル	５０mℓ	シンクイムシ類・ハマキムシ類	前日
アリエッティＣ水和剤	１２５ｇ	黒星病・斑点落葉病・すす斑病・すす点病・炭そ病	前日

３．散 布 量 ：１０ａ当り⇒５００ℓ以上
４．散布上の留意事項
①必ずアーデントフロアブルを溶かしきってから、アリエッティＣ水和剤を混用する。
②果面の汚れ軽減のため、通常展着剤に代えて、展着剤ササラ 3,000 倍（水 100ℓ 当たり 33mℓ）を使用してもよい。
④アリエッティＣ水和剤は、桃・ネクタリン・野菜に飛散しないよう注意する。
⑤ハダニ類の発生が多い場合は、ダニオーテフロアブル 2,000 倍（水 100ℓ 当たり 50 mℓ）を加用散布してもよい。
⑥スモモヒメシンクイの発生が見られる園は散布間隔を１０日にし、前回散布との間隔が空き過ぎないよう注意し、丁寧に散布する。特別散布を行う場合は果樹技術員までご相談する。

◆心かび果（心腐れ果）対策について

シナノドルチェは心かび病の発生が多い。収穫前での対策として、樹上での選果・除去が必要となる。シナノドルチェは８月中旬頃を目安に実施する。大玉の果実を中心に着色が著しく進んでいる果実・地色の黄化が早い果実は、樹上で除去する。

◆カルシウム欠乏対策について

ビターピット・ジョナサンスポット、コルクスポット等カルシウム欠乏対策として、必要に応じて、下記内容により、葉面散布肥料を散布する。

１．対策時期：継続して月に１回程度

２．使用資材：

資材名	倍率	１００ℓ当り使用量
ストピットⅡ	５００倍	２００ｇ
スイカル	１，０００倍	１００ｇ
カルビタ	１，０００倍	１００ｇ
カルタス	５００～１，０００倍	２００～１００ｇ

３．注意事項：基本、カルシウム肥料とリン酸肥料は結合してしまうため混用しない。
ストピットⅡは、白くなるので収穫前の使用は控える。

◆落果防止剤のストッポール液剤(収穫25日～ 7日前まで)散布について

１．調合量と散布日　展着剤は加用しない。

対象品種	水100ℓ当り調合量	散布時期目安	実際散布日
シナノドルチェ	６６mℓ	８月１６日（金）～８月２２日（木）頃	月　日
紅　玉	８３mℓ	８月１６日（金）～８月２２日（木）頃	月　日
秋　映	８３mℓ	８月３０日（金）～９月　５日（木）頃	月　日
陽　光	８３mℓ	８月３０日（金）～９月　５日（木）頃	月　日

２．散 布 量：１０ａ当り⇒５００ℓ

３．留意事項

①シナノドルチェは収穫１５日前頃、紅玉は収穫２５日前頃を基本とする。
②土壌が乾燥していると効果が低下する。乾燥している場合は、かん水を実施してから散布する。
③単用で１回(朝か風の無い夕方)散布とする。農薬散布とは１日以上間隔あける。
④乾燥しやすい園地は生理落果が早まる場合があるので、早めの散布とする。
⑤散布対象以外へ飛散しないよう、手散布で果実及び果そう葉を中心に丁寧に散布する。
⑥落果防止剤は、水道水を使用する。